2026年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会



令和８年 11 月７日 (土) から８日 (日) までちばぎんアリーナ (千葉県千葉市) において「2026 年度講道館杯全日本体重別選手権大会」が開催され、柔道班から**坪根菜々子**（つぼねななこ）３等陸尉以下８名が出場し、女子で優勝と第３位の成果を収めた。 初日は女子の試合が行われ、翌日には男子の試合が行われた。会場は７つの畳が設置され、男女全階級あわせて 475 名が出場する国内最高峰の大会で、12 月に東京体育館で行われるグランドスラムなどへの出場選手の選考も兼ねた大会だった。







女子 48kg 級に出場した**吉岡光**（よしおかひかり）２等陸曹は２回戦から出場し、その初戦 を２分 20 秒、崩袈裟固の一本で勝利し幸先の良いスタートを切った。３回戦は相手の指導三つを誘い反則勝ち。続く準決勝は原田瑞希選手 (JR 東日本) に開始 36 秒で出足払いの有効を取ると、そのまま４分が終了し、優勢勝ちにより決勝進出を決めた。決勝戦の相手となった畑山凜選手 (明治国際医療大学３年) は、昨年の講道館杯の３位決定戦で９分近い戦いを繰り広げた末に勝利した選手。2年連続の対戦は決勝戦が二人の舞台となった。試合開始早々相手に詰め寄り積極果敢に攻め始めたが、畑山選手も負けじと一進一退の攻防が続いた。お互いに決め技が出せない状況の中、吉岡２曹は３分 21 秒に指導を受けてしまう。しかし、その 10 秒後に繰り出した一本背負投げが有効の判定となり会場は一気に沸いた。吉岡２曹は終了間際に二つ目の指導を受けたが、再開後すぐに時計は「0」を示し、４分間の試合終了のブザーが会場に響き渡ると吉岡２曹の優勝が決まった。特に試合終了 40 秒前からの激しい攻防は、互いに最後まで諦めないという気迫溢れる闘いを見せ、会場中を釘付けにした素晴らしい試合だった。試合直後に行われた表彰式では、講道館杯を授与されると感情が溢れ出し目に涙を浮かべた。

昨年のリベンジを果たし、2024 年から２年ぶり２回目となる講道館杯のタイトルを獲得した吉岡２曹は、「優勝をねらっていたから嬉しい。日々の正しい生活が今回の優勝につながった。色々な感情が溢れる中、試合に合わせて優勝という形に持っていけたのは良かった。これからの国際大会でも結果を残せる選手になりたい。48kg 級は強い選手が多いので這い上がる気持ちで頑張りたい。」と大会を振り返るとともに今後の抱負を語った。また、**瀬戸美咲** (せとみさき)2 等陸曹は、女子 78kg 超級で自分より体の大きい相手に対して果敢に攻めて第３位の成績を収め、講道館杯初の表彰台を飾った。なお、12 月５日から６日に行われる「グランドスラム東京２０２６」の女子 48kg 級に吉岡２曹が、男子 73kg 級に**内村秀資**（うちむらしゅうすけ）３等陸尉が日本代表としての出場権を獲得した。





自衛隊体育学校
PHYSICAL TRAINING SCHOOL

公式ＨＰ